

地域医療連携室だより vol.7

発行：蒲郡市民病院 地域医療連携室
TEL 0533-66-2307 FAX 0533-66-2308

地域医療連携室の仕事

～ディスプレイナーズ～

脱水、経口摂取困難で入退院を繰り返していた高齢世帯の患



者さんが、在宅療養を続けたいとのことで、中心静脈栄養で在宅療養を目指すことになり介入依頼がありました。病棟看護師からの点滴管理を含めた療養生活指導と並行し、在宅医へ情報提供と訪問診療、点滴管理の依頼と地域の訪問看護師への退院前訪問依頼と担当ケアマネジャーとのサービス担当者会議など在宅療養の環境調整を行い、無事自宅退院されました。先日訪問看護師と居宅訪問し、お元気な患者さんの様子を拝見して、在宅の持つ力を感じ、可能な限り在宅医の先生や地域の社会資源を活用しながら、住み慣れた家へ帰ることを目標に、患者さんや家族の望む支援をしていきたいと考えています。

ディスプレイナーズ 神田美由起

明けましておめでとうございます



皆様におかれましては、お健やかに初春をお迎えのことと存じます。巷では、インフルエンザの足音が聞こえてきておりますが、いかがおすごでしょうか。

昨年は当地域医療連携室に多大なるご理解とご協力を頂き感謝申し上げます。今年度もさらに地域の医療機関様との連携を深めてまいります。開放型病床のご利用や登録、患者さんをご紹介頂きます際には、ぜひ地域医療連携室をご利用くださいませうようお願い申し上げます。また地域の皆様に喜んで頂けます様に職員一丸となって邁進してまいりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

昨年は、前方連携にあたる紹介予約制の運用に力を入れてきました。紹介患者さんの来院してからの受付、受診をよりスムーズにすることを目標にしてまいりましたが、もう少しの間、状況を見守って頂きますと共にさらにご利用しやすいように改善していきたいと思っております。今年は、「かかりつけ医」からの紹介、逆紹介の強化を図り、紹介医療機関の予約率の向上をと考えていきたいと思っておりますので、不都合、ご意見、ご希望等がございましたら遠慮なくご連絡頂ければ幸いに存じます。

地域医療連携室長 小林佐知子

年末年始（12/28～1/5）の受診状況報告

比較のお天気に恵まれたせいか、穏やかに過ぎていきました。

	患者数	入院患者数	救急搬送件数
総数	1,044 人	81 人	77 件
1 日平均	116 人	9 人	9 件
	最高 148 人	最高 13 人	最高 14 件

一連携室からのお知らせ

1 月 30 日（木）の午後 8 時より市医師会、市歯科医師会の先生をお招きして「地域医療連携交流会」を開催します。当院の医師も参加し“顔の見える連携”のためのイベントです。あわせて 1 月より稼働します「地域医療連携ネットワークシステム」の説明会も行います。どうぞご参加ください。

地域医療連携室だより vol.7

発行：蒲郡市民病院 地域医療連携室

TEL 0533-66-2307 FAX 0533-66-2308

蒲郡市民病院 皮膚科

当科は平成 24 年 4 月より私加藤が赴任いたしました、大口亮子医師と 2 名で診療に当たっております。大口医師は平成 25 年 8 月より産休に入っており、平成 26 年 3 月までは私と、吉田美佐子医師（火曜）で切り盛りをしております。平成 26 年 4 月からは新たに 1 名赴任の予定があり、そこからは産休中の大口医師を含め 3 名体制になる予定です。



皮膚科というと入院より外来医療といった印象を持たれる方も多いかと思われませんが、当院は入院診療、手術治療に力を入れており、年間入院患者数は 371 名（平成 24 年下半期～平成 25 年上半期まで）と、豊橋市民病院や安城厚生病院などの周囲の大病院と比べても遜色ない人数であります。また手術においても年間 330 例（同上、入院、外来含む）と比較的多数の手術を行っており、特に皮膚がんに関しては周囲のクリニックの先生方や名古屋市立大学病院とも連携を密にとり、力をいれて取り組んでおります。近年の高齢化に伴い、小さなほくろやシミ、小腫瘍などが実は皮膚がんであったといった症例も多く見かけるようになってまいりました。先生方の診療の中でそのような患者様がおられましたら是非とも一度お気軽に当院へご紹介願えると幸いです。

また、手術以外にも当科では難治性皮膚疾患についても取り組んでおります。ここ最近特に増加しているのは、薬剤アレルギーによる相談です。特に近年発売された降圧剤（特に合剤のもの）については光線過敏型薬疹を呈するものが多くあります。これらに対する薬剤アレルギー検査も行っておりますので、気になる皮疹をお持ちの患者様がおられましたらこちらに関しても是非ご紹介ください。

さらに当院では治療に必要な機器も幅広く取りそろえており、褥瘡に対する持続陰圧吸引療法や各種光線治療、足指虚血の血流評価（ABI/PWV/SPP など）、皮膚エコーなど、ほとんどの皮膚疾患に対しての検査、治療が可能です。検査のみ依頼したいといった場合でも対応は可能ですので、お気軽にご紹介ください。

最後に、今後も患者様、周囲医療機関様のニーズにあった診療を心がけ、東三河地区において皮膚疾患の中核的役割を担えるように努力を続けていきます。先生方におかれましては、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

文責：加藤裕史